

言語活動の充実に関する実践事例

学校名（廿日市市立浅原小学校）

- ① 教科等 外国語活動 ② 学年 第5・6学年
 ③ 単元名 外来語を知ろう
 ④ 本時の目標 外来語とそのもととなる語とでは、音が違うことに気付き、英語の音に気を付けて発音しようとする。
 ⑤ 学習の流れ（1時間目／全4時間）

学習活動	指導上の留意事項	評価規準〔観点〕 〔評価方法〕
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> カタカナで書いてある外来語は、そのもととなる英語を変えて作られた日本の言葉であることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 外来語とそのもとの英語との音の違いに気付いている。 〔言語や文化に関する気付き〕（行動観察） 英語の音を意識して発音している。 〔外国語への慣れ親しみ〕（行動観察）
2 外来語と英語の発音の違いを見つける。	<ul style="list-style-type: none"> 外来語とそのもとの英語の発音を聞きながら、違いを見つけさせる。 	
3 英語を使ってショッピングゲームをする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなカードを数枚持って、屋台のようにお客さんに欲しいものを英語で質問して、お客さんの英語の返事を聞き取るゲームをさせる。 既習した英語の発音を意識して会話させる。 英会話独自の会話の終わり方を知らせ、英会話のマナーに慣れさせる。 	
4 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 外来語と英語とのどんな発音の違いに気付いたかと、英語の発音を意識して発音したかどうかを発表させる。 たくさんの外来語を英語の発音を意識して発表するなど、こんな活動をして欲しいという姿を見せてくれた児童を全体の前で評価する。 	

〔言語活動の充実〕

設定した言語活動を通して育てたい力

- 既習した言語を活用して、発音を意識しながら英語で表現して、自分の欲しいものを伝えることができる。

言語活動の充実のための指導の工夫

- 「聞いてみたい」、「話してみたい」という思いをもたせるために、聞く・話す必然性のある場面を設定する。
 ○ たくさんの人と会話をさせるとともに学習意欲を高めるために、買い物をするゲームを行う。